
祈り

S T A R ジョーカー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

祈り

【Nコード】

N3749C

【作者名】

STAR ジョーカー

【あらすじ】

惑星調査隊が見た物は・・・一心に踊り続ける謎の集団

「祈り」

俺は惑星調査隊の一員として

ある惑星の遺物を調査している

朽ち果てた建造物の前では、相変わらず、祭りが続いていた。

5〜6人のグループに分かれ、同じ踊りを繰り返し踊っている。

傍らには、無数の骸骨が散乱している。

彼らはそんなことなど気にすることもなく・・

一心におどりつづけている。

我々の接近に対しても何の興味も示さないほど、熱中しているのか？

俺は通信機のスイッチを入れた

「こちら、調査隊より母船へ、上空より発見された集団は、さきほどの予想どおり、

反応なく、建造物もしらべましたが、特に問題はありません。

何かの宗教儀式らしいですが、くわしいことは不明です。」

母船からの返事が来た

「了解、詳しいことは、学術調査船にまかせるとして、帰還せよ。」

我々はその場を離れシャトルに乗り込んだ。

三角形のシャトルの小窓から、そう遠くない場所に、さきほどの集団が見える

あの建造物は、機能しなくなってから、おそらく1万年は経っているだろう。

崩壊する前のこの惑星の、文明とはどんなものだったのか？

俺は思いをはせた。

風化した骸骨は何を意味しているのだろうか？

シャトルのエンジンはうなりをあげ、上昇を開始した。

しだいにちいさくなる、あの建造物の前では、相変わらず、踊りが続いていた。

彼らの金属質の頭にはめ込まれた、無限LEDの光が、時折弱く光りながら

しだいに見えなくなった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3749c/>

祈り

2010年11月17日14時36分発行